

優秀賞 (作文の部 中学生)

『土砂災害と私』

周南市立周陽中学校
一年生 長峯 有彩

ようやく梅雨も明け、暑い日が続くようになりました。各地の集中豪雨のニュースを耳にしていたのも、昔のことのようには思われず、梅雨時には皆の話題になっていた集中豪雨や土砂災害も、雨が止み、皆の記憶から薄れつつありますが、今も途方に暮れている人達がいるのは事実です。雨があがり、家族をなくし、家をなくした人達の悲しみが終わることは決してありません。

私は、毎年梅雨時期になると決まって流れる集中豪雨や土砂災害のニュースを人ごとのように思っただけで見えていました。しかし、平成21年、身近な場所で土砂災害が起きました。祖父母の家の近くで、老人ホームが被害にあいました。亡くなったり行方不明になったりしたのは老人でした。その日のことを祖父母から聞きました。

「土砂災害って本当におそろしいんだな……」
私はあらためて感じました。

そこで、土砂災害が起こった場所ではどのような共通点があり、どうしたら被害を減らせるのかという私が疑問に思ったことについて調べてみました。

まず大切なのが、自分達が住んでいる場所が安全かどうかを知ることです。それを知るためには危険箇所の表示やハザードマップ（災害予想図）などで確かめることができます。現在、土砂災害の危険箇所は全国に52万5千ヶ所以上もあるので自分達の避難場所を確認しておき、もし大雨が降ったり予想されたりしたら防災情報に注意することが重要です。土砂災害には前兆があるときがあり、山の斜面から石や岩が落ちてくる、山の斜面に亀裂が入る、湧き水が止まる、または普段と違うところから水が出ている、川の水が急に減る、山鳴りや地響きのような異常な音がするなどさまざまな現象が起きます。

土砂災害の現場で多くの人の証言に共通するのは、長年住んでいるが経験したことのない雨だった、避難しようとしたときには家のまわりは川のように避難できなかった、雷がひどく怖くて外に出られなかったなど避難のタイミングを逃すケースが多いことが分かりました。

防災情報はとても重要。しかしそれ以上に重要なもの、それはその場にいる人の体感です。雨の降り方をはじめ外の様子に細心の注意を払って、いつもの雨と違うと異常を感じたら、避難勧告などが出なくても大きな危険が切迫していると考え、大急ぎで避難し、そして「自分の身は自分で守る」という意識、これを大切にすることが重要だと思いました。

過去の災害の教訓を語り継いで、地域を自分達で守る努力を長年続けている地区があります。ここでは江戸末期に起こった災害を忘れないように当番の人が毎月決まった日に饅頭を配る習慣が150年間ずっと、忘れられることなく行われていて、防災の原点を教えている「悲劇を忘れないことで地域を自分達の手で守る」という先人達の取り組みに私はとても感心しました。

忘れられない、と聞くとまっ先に東日本大震災が頭に浮かびます。去年起こったこの災害の影響で、東北や関東では地盤が弱くなり、少しの雨でも土砂災害が起りやすくなっていると指摘されていて、早く対策を考えて、もう二度と起らないようにしてほしい……私はそう祈るばかりでした。

私は、なによりも避難を早く決断するためにも自分の地域にどのような危険があり、どこへ避難したらよいか、知っておくことが大切だと思いました。が、私の地区の避難場所、何となく思い当たる場所

はありますが、はっきりとは知らないし避難経路も考えたことがありません。頭では分かっているけど非常時に同じ行動がとれるのでしょうか。

まだまだ危険箇所はたくさんあると聞きました。災害はいつ、どこで起きるのか全く分かりません。国や県には、どんなに大きな災害が起きようと、安心して安全に避難ができるように対応してほしいし、また、みんなが安心して生活ができる環境を一日でも早く、整えてほしいと私は思います。そして私達個人は、非常時にいかに行動するか日頃から話し合う場をもつべきだと思いました。自分達が安全に毎日らせる平和な日々を送れるためにも、一人一人が危険な所はないかふり返り、見直していきたいと調べてみて感じました。